

2040 年を見据えた対応方針〔詳細版〕

1. 地域・病院の医療需要の状況

(1) 主な診療圏域における人口推移 ※ () 内は 75 歳以上人口

主な診療圏域 (市町村)	2015 年	2025 年	2040 年
苫小牧市、白老町	190,477 人 (24,000 人)	180,763 人 (34,335 人)	157,263 人 (36,248 人)
登別市、室蘭市	138,189 人 (23,071 人)	119,100 人 (28,039 人)	89,535 人 (22,468 人)
合 計	328,666 人 (47,071 人)	299,863 人 (62,374 人)	246,798 人 (58,716 人)

(2) 主要診療科 (疾患) の入院患者数 (1 日平均) ※2025 年度、2040 年度は見込み

診療科 (疾患)	2017 年度	2025 年度	2040 年度
内科・(整形外科※ ¹)	23.0	34.4※ ¹	32.5※ ¹

※1 2025 年度、2040 年度の入院患者数推計は、「白老町立国保病院改築の方向性」(R1.8.23) に基づき、地域の課題を踏まえ回復期患者の更なる受入れに対応した医療提供体制による患者推計である。

2. 将来に向けた取組

(1) 2040 年に担うべき役割・機能

2040 年に担うべき役割・機能 ／周辺の医療機関との役割分担・ 連携の在り方	2025 年に向けた取組 ／今後検討を要する課題	2040 年に向けた取組 ／今後検討を要する課題
<p>【自院の役割・機能】</p> <p>本町の総人口は 16,557 人(R2.2 月末)であるが、社人研によると 2040 年には 9,180 人と大幅な人口減少が見込まれている。しかしながら、75 歳以上後期高齢者人口の減少は鈍化傾向にあり、90 歳以上人口では 2040 年にピークを迎える見通しにある。</p> <p>町立病院の患者年齢傾向では 75 歳以上が多く占め、80 歳以降、年齢が高くなるにつれて利用割合が高まる傾向にあることから、2040 年の人口構造の推計を踏まえると、この傾向は変わらないものとする。</p> <p>このことから、白老町立国保病院においては 2 次医療機関や専門病院との連携を図りながら、比較的軽度な急性期患者の受入れと回復期患者の更なる受入れに加え、併設型介護機能の有効活用を図ることで、医療・介護福祉の一体的な提供を担うものとする。</p>	<p>【自院の取組】</p> <p>東胆振医療圏域において不足する見通しのある回復期患者について、今後更に受入れを担っていく必要があることから、地域医療連携室機能の強化を図るとともに、地域包括ケア病床への早期一部転換を図るなど、医療提供体制を確保し経営安定化に努めながら病院改築を着実に進めていくものとする。</p> <p>なお、本町のみならず東胆振医療圏域においても生産年齢人口が減少する見通しがあることから、医師や医療スタッフの安定確保に向け、働きやすい環境整備に取り組むものとする。</p>	<p>【自院の取組】</p> <p>2040 年には本町後期高齢者の中でも 90 歳以上人口は 2020 年の約 2 倍に達し、かつピークを迎える見通しがあることから、将来の人口構造に応じた適切な医療・介護福祉の提供基盤を保持していく考えにある。</p> <p>また、年少人口の減少が特に顕著な見通しがあることから、将来的には高齢者から小児まで対応できる総合診療体制の確保が課題にある。</p> <p>なお、本町のみならず東胆振医療圏域においても生産年齢人口が減少する見通しがあることから、医師や医療スタッフの安定確保に向け、働きやすい環境整備に取り組むものとする。</p>

【役割分担・連携】 ※医療機関名及び内容	【他の医療機関とともに行う取組】	【他の医療機関とともに行う取組】
<p>上記取組み方針を踏まえ、患者の状態に応じて近隣の2次医療機関や専門病院への紹介や、術後の回復期受入れの役割を担っていく必要がある。</p> <p>また、町民が身近な町内で専門医療を受けられるよう、今後も引き続き近隣医療機関からの医師派遣による医療連携を図っていく必要があるとの考えにある。</p>	<p>2次医療機関への紹介や術後の回復期受入れなど、地域連携の強化を図る必要がある。</p>	<p>2次医療機関への紹介や術後の回復期受入れなど、地域連携の強化を図る必要がある。</p>

(2) 病床規模 ※【】は【入院基本料／平均在棟日数】

	2018 (H30) 病床機能報告	2025 年	2040 年
総数（稼働病床数）	50 床	40 床※ ¹	40 床※ ¹
高度急性期・急性期	50 床 【急性期一般 5／17.6 日】	40 床※ ¹ 【急性期一般 5】※ ²	40 床※ ¹ 【急性期一般 5】※ ²
回復期	—	【地域包括ケア入院医療管理料】	【地域包括ケア入院医療管理料】
慢性期	—	—	—
（病床稼働率）	(36.1%)	(86.0%)	(81.3%)
休床数	8 床	0 床	0 床

※¹ 2025 年及び 2040 年の病床数は、「白老町立国保病院改築の方向性」(R1.8.23)に基づき、回復期患者の更なる受入れを想定した患者需要に対応していく為に必要な病床規模の検討案であり、今後、最終精査を図るものである。(R2.2.14 町考察)

※² 病床機能については、診療圏域における回復期病床不足への課題対応のため、上記(1)の役割・機能を十分果たしていけるよう、早期に回復期機能への一部転換を図っていく考えにあるが、機能別の病床内訳については検討中である。

(3) 医療従事者（常勤換算）

	2018 (H30)	2040 年
医師数 (診療科：人数／機能)	内科： 4.3 人／急性期、回復期機能 外科： 1 人／同上 小児科：0.7 人／急性期の機能	内科： 4.3 人／急性期、回復期機能 外科： 1 人／同上 小児科：0.7 人／急性期の機能
看護職員数	27.9 人	27.9 人

※長期的視点においては、総合診療体制確保についての課題を要する。